

49-61 頁

明治時代における日本のシェイクスピア受容について文献と上演史を中心に論じた。特に上演については、まず演劇改良運動に注目し、脚本の改良を第一に考えた坪内逍遙に焦点を当てた。シェイクスピアの移入は、日本に西洋演劇のドラマツルギーを移植するためにシェイクスピアの翻訳が坪内逍遙によって果たされたことを最大の業績と評価した。これは、明治という時代の西欧化の中、単に異文化を取り入れるのではなく、自文化として日本の伝統芸能を守りながら、新しいドラマツルギーを日本に根付かせた異文化理解であったことを高く評価した。(A6)